

# あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター  
センター長 橋本 浩一

## 子どもたちが主役となりつつあるエコチル調査 ～大きな果実のために～

日頃よりエコチル調査への御理解と御協力を厚く感謝申し上げます。

平成23年1月から開始されたエコチル調査は12年目に入りました。令和4年度現在、参加されているお子さんは小学2年生から5年生になりました。当ユニットセンター(UC)は参加者、関係者の御理解と御協力のもと、ともに歩み、エコチル調査に参加した妊婦さんから出生した児の約93%にあたる約12,000名(令和4年5月現在)が継続参加されています。令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応に追われましたが、参加者が安心して調査にご参加いただけるよう努めて参りました。ここに令和3年度のエコチル調査福島UCの活動状況を報告いたします。

### “対面調査への対応”

対面で実施している、学童期検査、医学的検査においては、国、県、そして大学からの通知などを参考に感染状況を踏まえながら一時中止など適宜対応しました。また、対面調査の再開の際には地域保健、医療、教育関係者および協力医療機関関係者へご意見を伺い判断しました。さらに、日々の実施においては、大学病院の感染制御部の協力も得て、「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を作成し、常に安全側に立ち調査を進めました。その結果、学童期検査における参加者への事業評価アンケート(n=1,884、令和4年5月26日集計)では、「感染症対策の取組により安心して検査受けることができましたか」との問いに対して、96.3%が「そう思う」、2.8%が「ややそう思う」と回答されました。

### “「新たな生活様式」の定着のなかで”

環境問題を“親子で一緒に学び合う”機会としての環境セミナーでは「家族で考えよう！SDGs達成と脱炭素社会づくり」と題してオンラインでSDGsについて学びました。また、調査参加者の成長に応じたイベントとして“おうち時間”を少しでも楽しんでいただくため、ダンス動画や福島県文化財センター白河館“まほろん”の御協力のもと”はにわ”作りの福島UCオリジナルの動画を配信しました。

### ”新たな研究に向けての準備”

小学4年生時に乳犬歯(2本)を提供いただき、乳歯に含まれる化学物質を測定するための“乳歯調査”が開始され、令和3年7月より調査票と乳歯回収キットの発送を開始しています。また、環境中の化学物質の健康への影響をより正確に検討するために遺伝要因を調べるゲノム・遺伝子解析研究へのオプトアウト方式による協力意思確認も令和4年3月より開始されました。さらに10歳詳細調査でのWISC検査のために検査者の養成を開始しました。

#### “成果の発信”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンスを社会に還元することです。全国10万組の母子からのビッグデータによりエコチル調査関連の論文が数多く執筆されています。福島UCでは令和3年度は学術ワーキンググループのメンバーが12通(英文累計32通)の英語論文を発表しました。当UCを含めエコチル調査からの発表論文は当UC、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。

#### “調査主役の子どもを見据えて”

令和3年度より子ども本人が回答する「子どもアンケート」が開始されました。10歳、11歳、12歳が対象となります。また、福島UCから年3回発行されるニュースレター“こぼちる通信”には子ども向けコーナー、そしてホームページにはキッズページをそれぞれ新たに設けました。

最年長の子どもたちが小学校高学年となり、いよいよ子どもたちが主役となってきました。いかに主役の子どもたちが本調査に興味を持ち、継続参加するかがエコチル調査から得られる果実の大きさに関わり、そして、その果実が参加者、社会に還元されてゆきます。今後とも、関係者の皆さまの御理解と御協力のもと参加者とともに一步一步あゆみ続けて行きたいと存じます。よろしくお願いいたします。

令和4年6月